平成30年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者A日程 試験問題

刑事法系（刑法，刑事訴訟法）

<解答上の注意>

1. 問題冊子は，表紙を含め3枚である。
2. 問題には，問題1と問題2がある。配点は，問題1が60点，問題2が40点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は，問題1用と問題2用の2枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙1枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し，また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお，整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後，問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は，黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後，解答用紙と貸与した六法を回収するので，指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は，すべて監督者の指示に従うこと。

【問題1】 次の各設問に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題1」と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、2問とも解答すること。）。

〔設問〕 1

Xは、Yから、Vに傷害を負わせるよう教唆され、Vに暴行を加えたところ、Vが抵抗したことから殺意を生じ、その場でVを殺害した。

XとYの罪責を述べなさい（特別法違反の罪を除く）。

〔設問〕 2

Zは、A信販会社が発行したZ名義のクレジットカードを、支払意思も能力もないにもかかわらず、B電気店において店員Cに提示して、パソコン1台を購入した。

Zの罪責を述べなさい（特別法違反の罪を除く）。

《問題1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】 次の事例を読み、後記設問に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。

【事 例】

平成29年8月1日午後8時頃に甲市内で発生したV女に対する殺人事件を捜査していた警察官Kらは、甲警察署において、犯人の可能性が高いと思われるA男（乙市に居住。甲警察署からは車で約2時間の距離。）を任意で取り調べようとして、事前に供述拒否権があることを告げた上で同月2日午後6時頃から取調べを開始した。A男は、当初関与を否定していたが、午後9時30分頃になって「8月1日の夜にV女と会っていた。」旨供述した。警察官Kらは、夜も遅くなったので、同日午後10時頃、A男に対する取調べを止め、A男に「今日はこれで帰ってもらっていいが、明日の午前9時頃からまた事情を聴きたいので、来てもらいたい。」旨告げたところ、A男は「わかりました。ただ、これから帰るとなると遠いので近くのホテルに宿泊したい。どこかホテルを教えてほしい。」と述べた。そこで、警察官Kは、A男に甲警察署から徒歩15分ほどの場所にある「ホテルα」を紹介した。A男は、自ら「ホテルα」に宿泊予約を取り、一人で同ホテルに向かい、自費で宿泊費を支払い、同夜は宿泊した。このとき、警察官は、A男に同行したり、「ホテルα」の監視をしたりすることはなかった。

翌3日、A男は、午前8時40分頃、「ホテルα」を出て、午前9時頃、一人で甲警察署に出頭した。警察官Kは、改めて供述拒否権があることを告げた上で、昨夜に引き続き、すぐにA男に対する事情聴取を開始したところ、午後5時頃「V女とけんかになり、首を絞めた。」旨の供述をした。そこで、警察官Kは、引き続きA男の取調べを継続し、結局、午後9時頃まで取調べを行った。この間、警察官Kは、A男に対し、昼食と夕食のための休憩を各1時間取らせた。また、取調中、A男が帰宅したい旨の申し出をしたことなどは一切なかった。

〔設 問〕

警察官Kが平成29年8月2日午後6時頃から翌3日午後9時頃にかけて行ったA男に対する上記取調べは適法か。

**《問題2 以上》
《刑事法系問題 以上》**

【出題意図】

問題 1

設問 1 は、教唆者が軽い罪を教唆したにもかかわらず、正犯者が重い罪を実行した場合の処理について問うものである。

設問 2 は、自己名義のクレジットカードの不正使用を素材として、詐欺罪の基本的な理解を問うものである。

問題 2

身体拘束がなされていない被疑者に対する任意取調べの限界について問うものである。